資料１

重点・要点審議事業一覧表

〔　　〕は参考値
（前回評価から新たな供用があり、残事業に対する便益の変化が生じていることから算出）

区分	番号	重点・要点	県・政令指定都市名	事業名 路線名	事業名 事業名	前回評価	事業計画等の変化 車線数	事業計画等の変化 事業延長（km）	事業計画等の変化 開通済延長（H28開通予定含む）（km）	事業計画等の変化 変更内容（H28開通予定含む）	事業費の変化 全体事業費（今回）（億円）	事業費の変化 全体事業費（前回）（億円）	事業費の変化 暫定事業費（今回）（億円）	事業費の変化 暫定事業費（前回）（億円）	事業費の変化 変化要因	計画交通量の変化 計画交通量（※1）（今回）（台/日）	計画交通量の変化 計画交通量（※1）（前回）（台/日）	計画交通量の変化 変化要因	費用便益比の変化 全体（※2）（今回）	費用便益比の変化 全体（※2）（前回）	費用便益比の変化 残事業（※3）（今回）	費用便益比の変化 残事業（※3）（前回）	H29年度以降開通予定等（H28.9時点）	その他（※4）	対応方針（原案）
復興	1	重点	岩手県 宮城県	三陸沿岸道路	登米～釜石 （JCT間一体評価）	H27 （再評価）	2/2	約110	50.8	登米志津川道路 ・登米東和IC ～三滝堂IC 2.0km H28.4開通 登米志津川道路 ・三滝堂IC ～志津川IC 9.1km H28.10開通 南三陸道路 ・志津川IC ～南三陸海岸IC 3.0km H28開通予定	4,762 [+21%] （震災前に完成した箇所の事業費は含まず）	3,944	－	－	・労務費高騰及び復興係数（※5）適用 【＋588億円】 ・気仙沼湾横断橋の構造等見直し 【＋230億円】 計 ＋818億円	11,900	11,500	常磐道４車化 （いわき中央IC～広野IC、山元IC～岩沼IC）	（防災機能向上に有効性有り） 1.2	1.4	2.1	1.9	南三陸道路 ・南三陸海岸IC～歌津IC 4.2km H29年度開通予定 歌津～本吉 ・歌津IC～歌津北IC 4.0km H30年度開通予定 ・歌津北IC～卯名沢IC 6.0km H30年度開通予定 ・卯名沢IC～本吉IC 2.0km H32年度開通予定 本吉気仙沼道路（Ⅱ期）4.0km ・H30年度全線開通予定 本吉気仙沼道路 7.1km ・H29年度全線開通予定 気仙沼～唐桑南 ・気仙沼IC～気仙沼港IC 1.7km H31年度開通予定 唐桑北～陸前高田 10km ・H30年度全線開通予定 吉浜～釜石 14km ・H30年度全線開通予定	－	事業継続
通常	2	要点	宮城県	一般国道４号	金ヶ瀬拡幅	H25 （再評価）	4/4	3.7	2.9	・0.8km開通 （H28.4）	84	84	－	－	－	－	25,200	－	－	1.7	〔 4.1 〕	3.2	H30年度全線開通予定	H25第４回東北地整事業評価監視委員会	事業継続
	3	要点	宮城県	一般国道108号	古川東バイパス	H25 （再評価）	2/4	5.1	2.3 （暫定２車）	－	340	340	260	260	－	－	15,200	－	－	1.4	－	1.8	－	H25第４回東北地整事業評価監視委員会	事業継続

※1. 計画交通量 欄内の「－」は、費用便益比（残事業を含む）の算出が対象外となった場合、計画交通量の算出も対象外。
※2. 費用便益比（全体）欄内の「－」は、交通需要量、事業費、事業期間等の変化量が＋10%以内であり、前回評価時の感度分析の範囲内となるため、算出対象外。
※3. 費用便益比（残事業）欄内の「－」は、※2に同じ。但し、前回評価時から事業区間内に部分供用がある場合は、残事業の便益に変化が生じるため算出

※4. 再評価効率化の観点で、事業費等の変動がない事業において、事業の必要性にかかる資料（整備効果等）の添付を省略している。
その事業においては東北地整HPに掲載している記載の委員会資料で確認可能
※5. 資材やダンプトラック等の不足により、作業効率の低下が生じており、積算額と実支出が乖離。このため間接費を割り増し。